

発 言 通 告 書 要 旨 （１枚目／全２枚）

氏 名 上田 朋和				
発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)		広域観光における連携について 黒部市、あわら市との連携について 全国に6駅しかない「温泉」の名を持つ新幹線駅のうち、3駅（加賀温泉駅、芦原温泉駅、黒部宇奈月温泉駅）が北陸3県に集中している。これらの駅は、地域の温泉地と北陸新幹線により結ばれており、広域的な観光プロモーションや文化交流を通じて、地域のブランド価値向上が期待される。その上で、中間である加賀市が中心となり、各自治体や民間団体と連携した具体的なプロジェクトを推進することにより、観光振興や地域経済の活性化が図れることから、各自治体と連携した取り組みを期待するが、所見を問う。	
	(2)	①	越前加賀インバウンド推進機構について 実績と課題について 越前加賀インバウンド推進機構のこれまでの取り組み実績と、現在の課題について、どのように認識されているかを問う。	
		②	広域連携の強化と今後のプロモーション戦略とデジタルメディア活用について 越前加賀地域は県境をまたいだ観光圏であり、広域連携による魅力創出が不可欠である。観光資源の相互補完や共通プロモーションの強化について、今後どのように取り組まれるのかを問う。 さらに、SNSや動画コンテンツ等、デジタルメディアを活用した訪日外国人への情報発信の強化が求められている。ターゲット市場ごとの戦略的なプロモーション展開の現状と、今後の強化策について問う。	
2			旧歴史民俗資料館について 教育民生委員会において、旧歴史民俗資料館の壁面剥落の説明があった。 現状のままでは危険性も高いため、早急に収蔵品の移設や建物の解体に向けた検討をすべきと考える。 そこで、旧歴史民俗資料館内の収蔵品の現状及び今後の解体の検討状況について問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全2枚)

氏 名 上田 朋和

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
3			旧加賀市教育総合支援センターについて 旧加賀市教育総合支援センターも建物の老朽化で、地震などの災害が起こった時には、旧歴史民俗資料館と同様に危険性がある。旧加賀市教育総合支援センターも、隣接している旧歴史民俗資料館にあわせて解体と跡地活用の検討を早期に進める必要があると考えるが、所見を問う。	
4	(1)		熊対策について 生息環境調査を踏まえた熊の行動パターンの把握と市の対応について 近年、熊の出没が常態化しつつある中で、これまで市が行ってきた生息環境調査の結果をどのように活用しているかについて問う。 あわせて、近年の出没傾向を踏まえて、新たな調査やデータ更新の計画はあるのか、見解を問う。 また、本年5月までは昨年と比べて多く目撃されており、今後さらに出没が増える可能性がある中、どのような対策を講じていくのかを問う。	
	(2)		鳥獣保護管理法の改正を踏まえた銃器使用や緊急対応体制の整備について 本年、鳥獣保護管理法の改正がなされ、特に大型獣に関しては、人の日常生活圏に熊等が出没するなど緊急時の迅速な捕獲や銃器使用の基準緩和が盛り込まれた。 これにより、自治体の判断で、一定の条件下においては従来よりも迅速な対応が可能となっている。とりわけ加賀市では、住宅地周辺や学校近くでの出没も報告されており、現場での即応体制の構築が急がれる。 加賀市ではこの法改正を受けて、銃器の使用や緊急捕獲に関するマニュアルや運用ルールの見直しを行っているのかを問う。 また、実地訓練やシミュレーション、住民避難との連動など、緊急対応訓練の計画があるのかを問う。	